

9. 広報活動

1. はじめに

大型放射光施設（SPring-8）が学術の発展や産業の振興に如何に貢献しているかについて国民の理解を得るとともに、放射光利用者の裾野の拡大に資するため、広報活動を通じた的確な情報発信は極めて重要である。2009年度も、前年度に引き続き、放射光利用の研究成果、利用者の支援活動、施設の運転状況、各種イベント開催など、SPring-8における活動情報の分かり易く、タイムリーな発信に努力した。具体的には、①プレス発表、取材対応などマスメディアへの情報発信、②パンフレット、SPring-8紹介DVDなど広報資料・映像の制作、③ホームページの管理運営、④見学者の受け入れに伴う受付、案内、展示室の運営、⑤施設公開、高校生のためのサマー・サイエンスキャンプ、展示会出展など各種広報行事の開催、などを実施した。

2. マスメディアへの情報発信

2-1 プレス発表

SPring-8を利用した研究成果や施設公開等のイベント情報などを東京、大阪及び地元兵庫のマスメディアに対して発信した。2009年度の発表件数は22件（記者会見3件、資料配付19件）であった。

その中でも特に、九州大学の北川宏招聘教授、牧浦理恵特任助教らによる発表「バッテリー電解質の性能を世界で初めて固体かつ室温で実現」及び大阪大学の山内和人教授、三村秀和助教らによる発表「世界で最も小さなX線ビームを実現」は5社以上の紙面で、またJASRIの小嗣真人研究員らによる発表「星から生まれる次世代磁気デバイス」はNHKや各雑誌で取り上げられ、反響が大きかった。

2-2 取材対応

新聞、テレビ、雑誌といったマスメディアによる、SPring-8及びその関係者に対する取材対応を行った。取材方法は、直接来所を主とし、電話取材も含む。2009年度は29件を数え、その内訳は、新聞13件、雑誌など出版物5件、テレビ9件、ジャーナリストによるもの2件であった。

これらのうち、海外のTV番組の取材が3件あったことは2009年度において特徴的なことで、SPring-8が、特にアジアを中心とした地域の放射光施設から、目指すべき施設として注目されていることの表れと考えられる。また、例年通りのSPring-8に関する基本情報の確認や研究成果等のプレス発表についての問い合わせの他、特に、事業仕分け等の社会的な動向に対応して、ジャーナリスト（山根一真

氏、立花隆氏）や新聞・雑誌記者による取材、情報収集が目立った。日本における最先端科学技術の象徴としてSPring-8が広く国民の皆さんに注目され、それに応えるべくマスメディアが情報収集に動いた結果であると考えられる。

3. 広報資料の制作

広報資料としては、和文広報誌「SPring-8 NEWS」、SPring-8パンフレット（三つ折り和文・英文、詳細版のデジタルパンフレット和文・英文）、SPring-8産業利用成果パンフレット、SPring-8学術成果集、普及棟展示室案内パンフレット（和文）、SPring-8紹介DVD、SPring-8関連の写真・映像、研究成果などの各種パネルなどがある。

「SPring-8 NEWS」は、編集委員会において編集方針、編集企画、校閲などの業務を遂行し、広報室が編集委員会事務局を担当した。また、発行回数は隔月刊誌として、奇数月に年6回発行した。本紙は、SPring-8の活動を紹介することが目的であるが、そこにおいて「広く一般読者の関心を惹きつける」や「わかりやすい内容を追求する」ことを優先に考え、編集を行った。また、SPring-8パンフレット（和文）は、従来、18ページもの、三つ折り、一枚ものの三種類が存在していたが、広報効果を効率的にあげるため必要性の高い情報だけを厳選して載せることとし、紙面発行は三つ折りに統一した（英文も三つ折りに統一）。なお、18ページものに関しては詳細版としてSPring-8ホームページ上にデジタルパンフレットとして引き続き掲載することとなった（和文・英文とも）。18ページもの（和文）はリニューアル前に1回改訂増刷し、リニューアル版の三つ折りは和文・英文とも各1回発行した。さらに、SPring-8産業利用成果パンフレット（2008年度版）に新たな利用成果事例2件（むし歯予防ガムの開発、軽量気泡コンクリートの材料設計法の開発）を追加し、理事長巻頭言や統計データなどを更新して2009年度版冊子を発行した。また、SPring-8ホームページ上でオンライン版も公開した。

SPring-8学術成果集については、放射光関連の13名の学識経験者を委員とする編纂委員会（委員長：坂田誠 名古屋大学名誉教授）を設置し、供用開始以来2009年度までにSPring-8を利用して得られた研究成果事例の中から、7分野における傑出した成果28件を選定した。専門的知識がなくても理解できるように表現を工夫し、各成果事例について見開き2ページで解説した。年度内に編集作業を完了し、電子ファイルとして完成させた（図1）。オンライン版及び冊子の発行は2010年度早々を予定している。本成果集と



図1 SPring-8学術成果集

SPring-8産業利用成果パンフレットの成果集シリーズは、一般人のみならず官公庁、国会議員、企業の経営者などにも、SPring-8の研究成果の学術的及び社会的重要性を理解していただくのに役立つものと期待され、本成果集編纂中に実施された政府の事業仕分けにおいて指摘された課題への対応として、SPring-8の意義や有効性について国民の十分な理解を得るためのツールになり得る。また、SPring-8のサポーターの増大、新規ユーザーの開拓、未利用分野の開拓などの一助となることも期待される。

2009年度は、2008年度に制作したSPring-8紹介DVD「豊かな未来を照らす光」の英語版を制作した。XFEL施設の建屋完成を踏まえ、2008年度版では写真やイメージ映像で対応していた部分も実際の映像に差し替えた。これら日本語版、英語版の紹介DVDは、一般見学者やシンポジウム出席者等に対する紹介に活用され、好評を得ている。2009年度に英語版が制作されたことにより、より広い範囲の見学者にSPring-8を紹介することが出来るものとなった。

SPring-8では、国際結晶学会（IUCr）が年6回発行する論文誌「Journal of Synchrotron Radiation」に施設情報を2004年以来毎号掲載し、放射光科学の普及に貢献している。2009年度は、研究成果5件（共用ビームライン4件、

理研ビームライン1件）及びSPring-8の最近のニュース1件を取り上げた。

4. ホームページの管理運営

ウェブは極めて重要な広報手段の一つである。2001年度から広報室がSPring-8ホームページ（<http://www.spring8.or.jp/>）の管理・運営を所管し、WWW編集委員会の事務局も広報室に置かれている。理研・JASRI合同のSPring-8ホームページ・ワーキンググループによる検討結果に基づき、2009年6月にSPring-8ホームページの全面改訂を行ったが、施設の高度化に関する活動情報のページなどを充実させるため、2009年度はWWW編集委員会を4回（研究系編集委員による臨時委員会を含む）開いた。

2009年度におけるSPring-8ホームページ（トップページ）へのアクセス数は534,645件であった。日平均アクセス数は1,465件、平日の日平均アクセス数は1,783件、休日（年末年始を含む）の日平均アクセス数は845件、ユーザータイム期間中の日平均アクセス数は1,647件（年度180日）、非ユーザータイム期間中の日平均アクセス数は1,287件（年度185日）であった。

また、同年度における主要コンテンツの更新件数は、日本語ページ及び英語ページ合わせて820件（月平均68件）であった。「プレスリリース・トピックス」欄に掲載されたSPring-8の研究成果に関わるプレス発表記事は42件であった。SPring-8の定期刊行物（SPring-8 News、SPring-8 Research Frontiers、SPring-8 利用者情報、SPring-8年報）のほかに、SPring-8産業利用成果パンフレット改訂版（日本語版）、SPring-8一般向けパンフレット（日本語版・英語版）がオンライン発行された。

5. 見学者の受け入れ

5-1 見学者の受付及び案内

2000年に放射光普及棟が開設されて以来、年末・年始を除いて原則として毎日見学者を受入れている。2009年度に

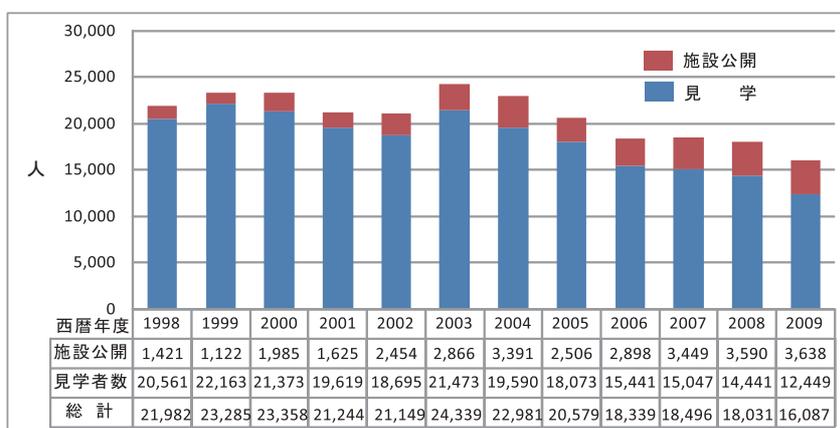


図2 見学者数の年次推移

は、施設公開日の来訪者（3,638人）を除いて、12,449人の見学を受け付けた。これまでの来訪者の推移を図2に示す。本年度は、新型インフルエンザの影響で見学のキャンセルなどが発生し、見学者数が減少したものの、施設公開日も合わせて年間1万6千人を超える見学者を受入れた。

5-2 展示室の運営

展示品については、①据付型及び可搬型SPring-8施設模型の改造、②可搬型蛍光X線分析装置コーナーの設置とその説明パネルの作成を行った。

据付型SPring-8施設模型については、主にX線自由電子レーザー（XFEL）施設の追加とそれに伴う日本語・英語によるナレーションの追加・変更を、可搬型SPring-8施設模型についても同じくXFEL施設の追加とそれに伴う日本語ナレーションの追加・変更を行った。可搬型の蛍光X線分析装置コーナーにおいては蛍光X線分析の原理説明パネルやそれに関連する説明パネルを設置し、高校などの団体見学対応ほか各種イベントなどに活用した（図3）。



図3 展示室での見学者への説明

6. 広報行事

6-1 施設公開

2009年4月26日（日）、科学技術週間にちなんで、17回目となるSPring-8施設公開を理研とJASRIの共催で、キャンパス内の各機関の協力を得て開催した。天候は小雨のち曇りではあったが、3,638人ももの来場者で大いに盛り上がった。2009年は、X線自由電子レーザー施設が新たに公開された。また、上坪講堂での科学講演会（「光フィルターを分子でつくる～レアメタルを使った分子集合体の構造と発光～」、「新しいダイヤモンドの超高压合成と地球深部物質の探査」、「放射光で探るハードディスクのナノ磁石」、「おいしい！」の仕組みを1000万分の1ミリの世界で探る」）も好評で、SPring-8の新たな一面を発見して頂ける良い機会となった。その他各会場では、実際に手で触れることが



図4 施設公開でのイベント風景

できるような体験イベント・コーナーを数多く設けていたこともあり、これらのコーナーは科学の不思議に興味津々の子供たちで絶えず一杯の状況であった（図4）。

6-2 高校生のためのサイエンス・サマーキャンプ

本サマーキャンプは、高校生が体験実習や研究者との交流を通じて科学技術に関心を深めてもらうことを目的として行われるものである。2009年度は、8月11日～13日の3日間の日程で、JASRI、理研、及び（財）ひょうご科学技術協会の共催で実施し、兵庫県内の高校生20名が参加した。初日はSPring-8の施設見学と理化学研究所放射光科学総合研究センターの米倉功治准主任研究員による「放射光、電子顕微鏡で生命の不思議を“見る”」と題する講演を聴講した後、食堂での夕食、研究者との交流会を行った。2日目は4グループに分かれ各グループそれぞれが「光通信の仕組みを調べる」、「光や音の不思議な振る舞い」、「タンパク質のはたらきを調べよう」、「光でさぐるナノの世界」のテーマの内から1テーマについて体験実習を行った。高校生は熱心に課題に取り組み、夜遅くまで実習に没頭した（図5）。3日目はまとめと発表を行い、聴衆からは難しい



図5 高校生のためのサイエンス・サマーキャンプでの実習の様子

質問も投げかけられたが一生懸命に説明しようとする姿勢が感じられた。多くの参加者にとっては初めての体験ばかりで疲れも見えたが、最後の写真撮影では充実感のある笑顔が印象的であった。

6-3 出張授業

出張授業は、SPring-8の研究者などが小中学校に出向き、科学技術についての実験を含めた授業を行うもので、1999年度から実施している。

2009年度は、播磨高原東小学校（たつの市）のサイエンス・アドベンチャー・スクール（SAS）授業に協力し、11月9、10日の2日間、JASRIの広報室職員が講師となり、5、6年生（9日）3、4年生（10日）の約80名を対象に実施した。授業では、「光とエネルギー」というテーマで、太陽電池パネルを用いて発光ダイオード（LED）や電球を点灯し、太陽電池パネルの枚数を変えた場合や、光源からの距離を変えた場合の明るさの変化を観察した（図6）。「光にも色々な種類があるとのことだが、可視光以外の光はどのような使われ方をされているのか？」など多くの質問があり、生徒も大いに興味を示していた。



図6 出張授業での実験の様子

6-4 展示会・イベントへの出展

企業や一般の方々を対象にSPring-8の理解を深め、SPring-8を利用して得られた成果や利用の方法を宣伝し、利用者を増やすため、真空展（9月16～18日、東京）、国際フロンティア産業メッセ2009（9月3～4日、神戸）、日本放射光学会（2010年1月6～9日、姫路）などで展示を行った。

また、青少年の科学技術への関心を高め、理解増進を図るため、青少年のための科学の祭典2009（8月1日、西はりま会場大会）、子ども霞が関見学デー（8月19～20日）、科学体験館サイエンス・サテライトにおけるSPring-8特別展（11月1～12日、大阪）、サイエンスフェアin兵庫（2010年1月24日、神戸）などのイベントに参加した（図7）。

さらに、これらの展示会において、SPring-8における測定技術や加速器の運転に関する理解に役立てるため、可搬型の蛍光X線分析装置及び可搬型4極・偏向電磁石模型の運用を開始し、2010年3月末までに14回のアウトリーチ活動に活用した。



図7 「サイエンスフェア in 兵庫」に出展

7. まとめ

これまでに述べたように、SPring-8における活動や放射光科学の普及・啓蒙に関して、種々の手段により分かり易い情報発信に努めた。引き続き、さらに効果的・効率的でタイムリーな情報発信の実現に向けた取り組みを進めたい。

広報室
木村 豊秋